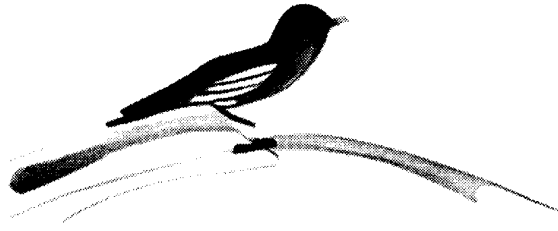


雪嶺集

〈宮坂静生鑑〉



浮遊

小林貴子

綾投げてたぐりて指揮者爽涼と
帚木をなびかする風午後の風
ゆきあひの空とて鳥の飛ばざる日
我が浮遊九月に帰るべきは何処
無限大描きて鷹の渡り初む
渡る鷹仰ぎて心決りたる
吾輩は鴛であつたかも知れぬ
縷紅草チエロ背負ひ来て弾き始む
きりぎりすおもちやのやうに首の抜け
蚊帳吊草は一人では遊べない